

加賀電子本社 屋上ビオトープ 調査・管理報告書

活動日	2023年10月10日	天候	晴れ	活動時間	13:00～15:00
作業者	久保田 潤一	報告者	久保田 潤一		
目的	生物調査、ビオトープ管理				
内容					
【作業内容】 <ul style="list-style-type: none">・ビオトープの写真撮影・水深の確認・生物調査・外来種のチェック・水温測定・池内の外来植物の駆除・池内の繁茂しすぎた植物の草刈り					
【生物調査の詳細】 <ul style="list-style-type: none">・ビオトープ創出時に導入した生物(ミゾコウジュ)も含め、生息・生育状況の調査を実施。・導入したミゾコウジュは、花が終わって結実していた。・今回もシャジクモがビオトープ一面に繁茂していた。本種は環境省レッドリストで絶滅危惧II類の希少種である。・トチカガミがランナーを伸ばし、生育範囲を広げていた。・新たな抽水植物として、フトイ、カンガレイ、カヤツリグサ、タマガヤツリが発芽した。・ヒメカメノコテントウの成虫1個体を確認した。・ダンダラテントウの成虫を複数確認した。・イトトンボ科の幼虫(ヤゴ)を確認した。まだ齢が浅く種の確定には至らなかったが、尾鰓の形状から見てアオモンイトトンボかアジアイトトンボの可能性が高い。飛翔能力が高くないイトトンボ類が初めて飛来し、今後の展開が期待される。・前回調査で確認したショウジョウトンボ属の一種の幼虫(ヤゴ)は、齢が進んでショウジョウトンボであることが判明した。複数個体を確認している。このまま水中で冬を越す。・オオシオカラトンボのものと思われる羽化殻が多数見つかった。夏から秋にかけて、このビオトープで羽化したことがわかる。・前回まで確認されていたコカゲロウ属の一種の幼虫は、今回は全く見られなかった。・外来種として、アメリカアゼナを複数株確認した。・トチカガミの繁茂によって、ビオトープ内には沈水植物、浮葉植物、抽水植物が存在する状態となった。構造が多様化して、より生物の生息に適した状態となった。・前回確認したミズギワカメムシ類は見られなかった。					
【その他】 <ul style="list-style-type: none">・ビオトープの日当たりは良好で、水草の繁茂には申し分ない。・水深が浅いエリアでは、抽水植物の繁茂によって水面が見えにくい状態となっていた。そのため、根際部分から刈り取る管理作業を行った。一部は刈り取らずに残し、生物の生息に配慮しつつ水面が見える状態にした。これにより景観も改善した。・外来種のアメリカアゼナは、全て引き抜きによって駆除した。・気温は28.3℃、水温は19.5℃であった。					



No. 1

撮影日: 2023年10月10日

撮影場所: 加賀電子屋上バイオトープ

解説

管理作業前。

左側の浅いエリアは抽水植物の繁茂によって水面が見えない状態。



No. 2

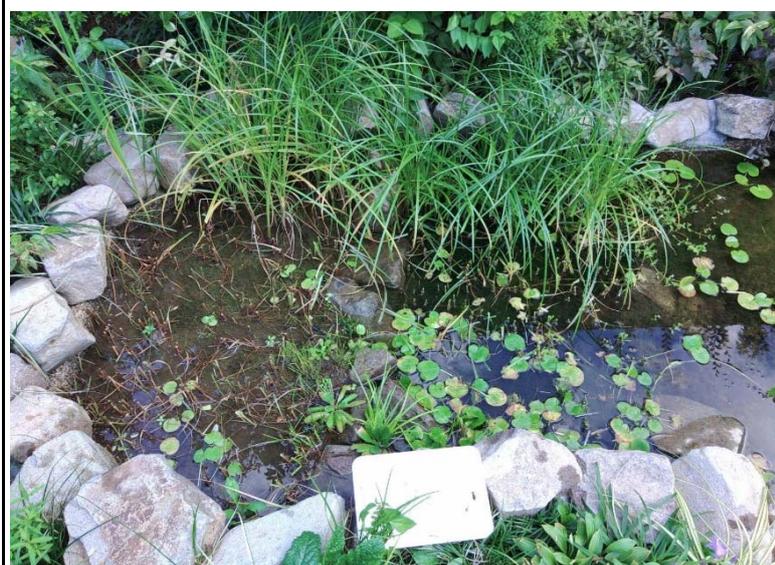
撮影日: 2023年10月10日

撮影場所: 加賀電子屋上バイオトープ

解説

管理作業後。

抽水植物は一部を除いて刈り取りを行った。水面が見えるようになり、景観も改善した。



No. 3

撮影日: 2023年10月10日

撮影場所: 加賀電子屋上バイオトープ

解説

浅いエリアの作業後の様子。抽水植物は生物のために一部あえて刈り残した。



No. 4

撮影日: 2023年10月10日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

トチカガミ(丸い葉)がランナーを伸ばして深いエリアにも生育範囲を拡大している。浮葉植物である本種が加わったことで、ビオトープの構造として複雑さ増して良い状態となっている。景観的にも美しい。



No. 5

撮影日: 2023年10月10日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

刈り取った抽水植物



No. 6

撮影日: 2023年10月10日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

駆除した外来種のアメリカタゼナ



No. 7

撮影日: 2023年10月10日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

新たに確認したタマガヤツリ



No. 8

撮影日: 2023年10月10日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

在来種のエノキグサ



No. 9

撮影日: 2023年10月10日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

ショウジョウトンボの幼虫(横から)



No. 10

撮影日: 2023年10月10日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

ショウジョウトンボの幼虫(上から)。多くの個体が見つかった。



No. 11

撮影日: 2023年10月10日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

オオシオカラトンボのものと思われる羽化殻が多数見つかった。夏から秋にかけて、このビオトープで羽化したもの。



No. 12

撮影日: 2023年10月10日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

イトトンボ科の一種の幼虫(横から)



No. 13

撮影日: 2023年10月10日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

イトトンボ類の種の特定の重要なポイントとなる尾鰓



No. 14

撮影日: 2023年10月10日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

イトトンボ科の一種の幼虫(上から)



No. 15

撮影日: 2023年10月10日

撮影場所: 加賀電子屋上ビオトープ

解説

ダンダラテントウ

加賀電子本社屋上ビオトープ 確認生物リスト

分類	種名	経緯 ※別表1	希少性 ※別表2		外来種	備考	確認記録 2023年度		
			環境省	東京都 区部			7/10	7/29	10/10
昆虫類	ヒメアメンボ	自然飛来				6月の記録も含めると複数個体を確認	○	○	
	ミズギワカメムシ科の一種	自然飛来						○	
	イトトンボ科の一種	自然飛来				幼虫を確認、アオモンイトトンボかアジアイトトンボの可能性が高い			○
	シオカラトンボ	自然飛来				成虫を確認	○		
	オオシオカラトンボ	自然飛来				幼虫を確認	○	○	
	ショウジョウトンボ	自然飛来				幼虫を確認		○	○
	ウスバキトンボ	自然飛来				成虫のみ		○	
	コカゲロウ属の一種	自然飛来					○	○	
	ヒメカメノコテントウ	自然飛来							○
	ダンダラテントウ	自然飛来							○
	トゲバゴマフガムシ	不明				由来は不明	○		
植物	ミゾコウジュ	導入	NT	VU		開花、結実を確認	○	○	○
	シャジクモ	発芽	VU	VU			○	○	○
	コナギ	発芽				開花を確認		○	○
	ツククサ	発芽				開花を確認		○	○
	アメリカアゼナ	発芽			○	10/10に駆除		○	○
	エノキグサ	発芽							○
	トチカガミ	発芽	NT	EX				○	○
	フトイ	発芽							○
	カンガレイ	発芽		VU					○
	カヤツリグサ	発芽							○
	タマガヤツリ	発芽							○
	カヤツリグサ科の一種	発芽					○	○	○
	メヒシバ	発芽							○

※確認記録

○:調査で確認

△:聞き取り等で確認

別表1 経緯について

導入	ビオトープの質の向上等を目的に、意図的に導入した生物
非意図的導入	土や水草などの移植に伴い、意図せずに入ってきた生物
自然飛来	ビオトープ創出後に周辺から自力で移動してきた生物
遺棄・放流	飼育されていたペットや園芸種などが捨てられたり、放流されたりしたもの
発芽	ビオトープに導入した土から自然に発芽した植物

別表2 希少性の表記について

表記	カテゴリー名称	基本概念
EX	絶滅	当該地域において、過去に生育・生息していたことが確認されており、飼育・栽培下も含めすでに絶滅したと考えられるもの
CR	絶滅危惧IA類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
EN	絶滅危惧IB類	IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
CR+EN	絶滅危惧I類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
VU	絶滅危惧II類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
NT	準絶滅危惧	現時点での絶滅危険性は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
DD	情報不足	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生育・生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
・	非分布	生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの